

事業所名 グループホーム愛の郷 笠岡
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成21年 3月31日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 自営業
資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員
B:現職 通所介護事業所管理者
資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター、音楽療法士、生活相談員

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

- ・当法人は、介護を必要とする高齢者に、豊かな自然の中で心癒される快適生活空間の提供をめざし、県内外の数ヶ所に事業所を運営しており、「グループホーム愛の郷笠岡」も法人の運営理念に沿って、地域に根ざしたホームとして隣接する「小規模多機能ホーム愛の郷笠岡」とも互いに協力し合いながら、手厚い介護を入居者へ提供している。
- ・入居者が住み慣れた場所で最期まで安心して暮らせるよう、各専門職とも連携を図り、入居者の尊厳を大切にしながら、看取りまでの介護を提供できるように体制を整えている。
- ・感染症予防対策には特に力を入れており、全職員が感染症の流行や対応策についての研修・情報収集に努め、統一した対応ができるように徹底している。また、ごみや食べこぼし等、気づいたら直ぐに片付け、清潔な住環境の提供に努めている。
- ・入居者の持てる力やわかる力を活かし、入居者の暮らしの自立を支援しており、入居時に排泄が全助だった方が、自分でトイレに行って排泄できるようになった例が数例ある。入居者への個別援助を心がけ、入居者が達成感や生き甲斐を感じて生き生きと暮らせるように支援している。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

- ・食事は、入居者と同じ食卓を囲み、昔懐かしい大家族のように和気あいあいと楽しく摂っており、一つの家族として、様々なことをより共感できるように、食事のあり方について再度検討し、今後も入居者一人ひとりと向き合った手厚い介護を提供していきたいことを希望する。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居者の個性を重視したケアを心がけており、入居者の体調や気分にも配慮しながら入居者一人ひとりに合わせた声かけやスキンシップを心がけている。 ・入居者と接する時には、ゆっくり、ゆったりとした態度で笑顔を忘れず、入居者一人ひとりの尊厳を守り、思いやりの気持ちを持って支援している。 ・ごみや食べこぼし等、目に付けばすぐに片付け、ホーム内の清潔・衛生を保つように心がけている。 ・歯磨きや下膳等、時間がかかっても自分でしてもらい、できないところや補助が必要などのお手を援助しており、入居者一人ひとりが持っている力を見出し、活かせるように取り組んでいる。 ・看取りまでの介護の提供をめざしており、入居者が最期まで安心して過ごしてもらえよう、入居者・家族の意向も踏まえながら、各専門職とも連携して看取りに関する方針の統一を図っている。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜寝付けられない場合には、温かい飲み物を勧めておしゃべりをする等配慮しながら、安心して気持ちよく眠れるように支援している。 ・入居者が好きな懐かしい歌を流し、入居者の生き生きとした表情や言動を引き出すように働きかけており、歌が得意な方は、歌を唄ったりして楽しい時間を過ごしている。 ・認知度の違いにより、他の入居者の言動が時にストレスになることもあり、職員は入居者の話に真摯に耳を傾け、入居者の気持ちを共感し、受容することで入居者が落ち着いた気持ちで過ごせるように心がけている。 ・温かい日差しの中で日向ぼっこをしたり、散歩がてらに近くのお寺に行き、お参りをして帰る等、自然の温もりの心地良さを感じてもらい、これまでの生活習慣を大切にされた支援の提供に努めている。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援		○
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居者一人ひとりのこれまでの生活歴や本人にとって大切な経験や出来事を知り、以前の経験を日々の暮らしの中で活かした役割作り等を行い、入居者が喜びや生き甲斐を感じて生き生きと暮らせるように支援している。 ・外部から、入居者に関する問い合わせがあった場合は、丁寧に断っている。また、面会に際しては、面会簿を設けず、カード式にして一人ずつ記入してもらい、ポストへ入れる方式を取っている。 ・入居者が居室で過ごす時間を大切にしており、散歩へ誘ったり家族が来たことを知らせる時には必ずノックをして確認してから入室するようにしており、入居者が安心して過ごせるように配慮している。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者は、職員が研修や勉強会に参加することを推進しており、2ヶ月ごとに実施される地域での研修、他のグループホームでの研修、内部での研修等への参加を呼びかけている。職員も、自己研鑽の良い機会として参加しており、研修報告書は全職員に回覧し、情報の周知徹底を図っている。また、ターミナルケアを行うにあたって、対応等についての勉強会も行い、介護知識や技術の習得に努めている。 ・事故が起こった場合は、直ちにミーティングや会議の場を設け、再発防止に向けての対応策や今後の方針について検討している。また、事故に関する報告書や記録類をきちんと整理、保存している。 		